

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		病 理 学				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	前期
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		医師	実務経験	病理診断科勤務		
科目目的		疾病の原因、発生の仕組み、経過、転帰の一連の過程を理解する。				
学習目標		1. 疾病の原因、発生の仕組みを理解する。 2. 疾病の経過・転帰の過程を理解する。				
授業計画	回	授業内容				授業方法
	1	病理学の概要と病因論				講義
	2	先天性疾患と遺伝病				講義
	3	細胞・組織障害				講義
	4	物質代謝障害				講義
	5	修復と再生				講義
	6	循環障害				講義
	7	炎症と感染症				講義
	8	免疫と免疫異常				講義
	9.10. 11.12.	腫瘍(1)、(2)、(3)、(4)				講義
	13.14.	病理検査室実習				見学実習
	15	試験				
使用教材		医療系学生のための病理学 第4版 講談社				
参考文献		症状を知り、病気を探る 照林社				
成績評価の方法		筆記試験				

科目名		感 染 症 学			
教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	医師 他2名	実務経験	実務経験あり		
科目目的	感染症の原因となる微生物について学び、感染症の基礎知識と感染予防対策を理解する。				
学習目標	【微生物学】 病原微生物について看護師としての基礎知識を習得し、主な病原微生物による感染症の特徴を学習する。 【免疫学・感染症の基礎知識】 1. 感染症の一般概念と免疫機構の基本を理解し、各論への足がかりをつける。 2. HIV感染の病態的社会的理解を得る。 【感染予防】 1. 感染の基礎知識を理解し、感染防止対策の実際を学ぶ。 2. 医療従事者として職業感染の知識と予防方法について理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元:微生物学 担当:臨床検査技師 Ⅰ. 微生物へのイントロダクション(Lecture1・8より) 1. 微生物と人間のかかわりあい 2. 微生物を学ぶ意義 3. 微生物学の範囲 4. 医学微生物学の歴史 5. 細菌・ウイルス・真菌・原虫の検査法			講義
	2	Ⅱ. 微生物のアウトライン(Lecture2より) 1. 細菌・ウイルス・真菌・原虫のアウトライン 2. 各微生物の特徴 3. 細菌検査の検体採取時における基本事項 4. 講義内容を確認問題により復習			講義
	3	Ⅲ. 細菌学各論(Lecture9より) ・グラム陽性球菌・グラム陽性(有、無)芽胞桿菌 ・放線菌関連菌・グラム陰性球菌 ・グラム陰性(好気性、通生嫌気性、嫌気性)桿菌 ・らせん菌・スピロヘータ・マイコプラズマ ・リケッチア・クラミジア			講義
	4	Ⅳ. ウイルス学各論(Lecture10より) ・ポックスウイルス～肝炎ウイルス ・スローウイルス感染症およびプリオン病 ・腫瘍ウイルス			講義
	5	Ⅴ. 真菌学及び原虫各論・寄生虫学(Lecture11・12より) ・真菌学各論(カンジダ～) ・原虫学各論(赤痢アメーバー～) ・寄生虫学 原虫と寄生虫の違いや各寄生虫の簡単な紹介 ・講義内容を確認問題により復習			講義
	6	単元:免疫学・感染症の基礎知識 担当:内科医師 感染症の概念と一般論 感染症診断の基礎 抗菌薬の使い方			講義
	7	免疫学概念 感染防止機構と各免疫担当細胞の役割 免疫不全とその疾患 ワクチンとは 定期接種と任意接種			講義
	8	HIV・AIDSの疾患の理解と世界の趨勢			講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
		感染予防対策	
	9	単元:感染予防 担当:感染管理認定看護師 感染の基礎知識 ・感染とは ・医療関連感染とは ・感染症の基礎知識 ・感染成立のしくみ	講義
	10	・感染防止技術の基本 ・標準予防策とは ・経路別感染予防策とは	講義
	11	感染防止のための環境整備 ・環境整備 ・ゾーニング ・環境汚染とリスクと対策	講義
	12	職業感染対策 ・針刺し防止対策 ・流行性ウイルス疾患予防 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘 ・結核予防対策	講義
	13	洗浄・消毒・滅菌 廃棄物の取り扱い	講義
	14	手指衛生・個人防護具の着脱の実際	DVD視聴・演習
	15	試験	
使用教材		【微生物学】 ビジュアル微生物学 第2版 ニューヴェルヒロカワ 【免疫学・感染症の基礎知識】ビジュアル微生物学 第2版 ニューヴェルヒロカワ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 【感染予防】ビジュアル微生物学 第2版 ニューヴェルヒロカワ 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術 看護技術プラクティス 第3版 学研	
参考文献		【感染予防】 院内感染予防必携 ハンドブック 第2版 環境感染学会 教育ツール Ver.3 ナーシング・プロフェッション・シリーズ 感染管理の実践	
成績評価の方法		筆記試験	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		薬 理 学						
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	後期		
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間		
担当教員		薬剤師	実務経験	実務経験あり				
科目目的		薬物の特徴・作用機序・管理について学び、薬物が人体に及ぼす影響を理解する。						
学習目標		薬の作用や副作用など薬理学の基礎を学ぶとともに、看護師国家試験の薬物療法の対策に重点を置く。						
授業計画	回	授業内容			授業方法			
	1	ガイダンス・医薬品総論(医薬品とは)			・教科書に従い理解を深めるため、パワーポイントを用いた講義形式を実施する。			
	2	医薬品総論(薬の作用原理・適正な使用)						
	3	生活習慣病に使用する薬(生活習慣病とは・高血圧)						
	4	生活習慣病に使用する薬(狭心症・脂質異常)			・国家試験対策を重視し、過去問の確認を繰り返し行うことにより、薬理学の知識を身近なものとして修得する。			
	5	生活習慣病に使用する薬(糖尿病・脳血管障害)						
	6	がん・痛みに使用する薬						
	7	脳・中枢神経系疾患で使用する薬			・確認問題を復習のまとめとして行			
	8	感染症に使用する薬						
	9	救急救命時に使用する薬						
	10	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬						
	11	消化器系に作用する薬						
	12	ホルモンと皮膚及び眼科外用薬						
	13	水分・電解質・輸液に使用する薬						
	14	正しく投与するための投与量計算						
	15	試験						
使用教材		ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学						
成績評価の方法		筆記試験						

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		診断と治療				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	9月～10月
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員		医師	実務経験	医師実務経験あり		
科目目的		画像診断、救急法・麻酔療法、手術療法について学び、人体に及ぼす影響を理解する。				
学習目標		【画像診断】 放射線検査、画像検査について理解する。 【救急法・麻酔療法】 麻酔、救急処置法について理解する。 【手術療法】 外科手術の意義を理解し、手術によって生体がどのように反応するか知ったうえで、必要な看護の基本を習得する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法	
		単元:画像診断 担当:放射線科医師				
	1	超音波検査、核医学検査			講義	
	2	1. 一般X線撮影の原理 2. CTの基本、造影剤について 3. MRIの原理、高磁場MRIの危険性 4. 血管造影とIVR			講義	
	3	単元:救急法・麻酔療法 担当:麻酔科医師 1. 麻酔法 麻酔とは、麻酔の種類			講義	
	4	2. 手術前の管理 手術中の管理(モニター)、手術後の管理、合併症など 3. 全身麻酔について 気道確保法 4. 麻酔導入法、吸入麻酔、静脈麻酔 局所麻酔について 局所麻酔薬、脊髄くも膜下麻酔／硬膜外麻酔 5. 救急処置法 BLS、ACLS、AEDの実際			講義 演習	
	5	単元:手術療法 担当:外科医師 1. 手術療法とは 1)外科学と手術の歴史 2)手術療法の位置づけ 3)治療手技としての手術 4)手術療法の将来			講義	
	6	2. 手術侵襲と生体の反応 1)手術侵襲の意味 2)侵襲に対する生体反応 3)サイトカインによる生体調節機能 4)手術と臓器不全			講義	
	7	3. 周手術期管理と術後合併症 1)周手術期管理とチーム医療 2)周手術期看護の基本 3)手術後の疼痛管理 4)術後合併症とその予防			講義	
	8	試験				
使用教材		単元:画像診断 系統看護学講座 別巻 医学概論 医学書院 単元:放射線療法 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 単元:救急法・麻酔療法、手術療法 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院				
参考文献		適宜紹介する。				
成績評価の方法		筆記試験				

科目名		疾病と治療Ⅰ(呼吸器、循環器)				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	6月～9月
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		医師2名	実務経験	医師実務経験あり		
科目目的		呼吸器・循環器系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
学習目標		1. 呼吸器系疾患について、検査・診断・治療を理解する。 2. 循環器系疾患について、検査・診断・治療を理解する。				
授業計画	回	授業内容				授業方法
		単元:呼吸器系 担当:内科医師				
	1	呼吸器の構造と機能				講義
	2	呼吸器系の症状と病態生理				講義
	3	呼吸機能検査・処置				講義
	4	疾患の理解①				講義
	5	疾患の理解②				講義
	6	疾患の理解③				講義
	7	疾患の理解④				講義
	8.9	単元:循環器系 担当:循環器内科医師 Ⅰ. 循環器系の主要症状について ・胸痛 ・動悸 ・呼吸困難 ・浮腫 ・チアノーゼ ・失神 ・四肢の疼痛 ・ショック Ⅱ. 検査・治療・処置 ①検査 心電図、X線検査、心エコー図、心臓カテーテル法、 血行動態モニタリング(肺動脈圧、肺動脈楔入圧、 心拍出量、CVP、観血的動脈圧モニタリング) 核医学検査(心筋シンチ)				講義
	10	②内科的治療 ・一般療法 ・薬物療法 ・心臓カテーテル治療 ・カテーテルアブレーション ・ペースメーカー治療 ・外科的治療(冠動脈バイパス術)				講義
	11	Ⅲ. 疾患と治療の理解				講義
	12	①虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞) ②心不全 ③弁膜症 ④高血圧 ・血圧の測り方、高血圧の分類、高血圧による影響、薬物療法				講義
	13	⑤不整脈 ・興奮伝導の異常による不整脈(房室ブロック、心房細動、 心房粗動、心室細動、心室粗動) ・洞機能不全症候群				講義
	14	⑥心筋疾患、先天性心疾患、肺性心				講義
15	試験					
使用教材		単元:呼吸器系 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院 2. ビジュアル微生物 第2版 ニューヴェルヒロカワ 単元:循環器系 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 医学書院				
参考文献		適宜紹介する。				
成績評価の方法		筆記試験				

科目名		疾病と治療Ⅱ(消化器、腎・泌尿器)				
教育内容		専門基礎分野	履修年次	1年次	履修時期	7月～10月
単位(時間数)		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		医師3名	実務経験	医師実務経験あり		
科目目的		消化器・腎泌尿器系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
学習目標		1. 消化器疾患でおこる症状および診断のための検査、治療を理解する。 2. 代表的な消化器疾患の症状、診断、治療について理解する。 3. 腎・泌尿器系疾患の病態および検査・治療について理解する。 4. 歯・口腔系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
単元	回	授業内容			授業方法	
授業計画		単元:消化器系 担当:外科医師				
	1	消化器疾患でおこる症状・徴候と病態生理 ・嚥下困難・胸やけ・嘔吐・腹痛・吐下血・下痢・便秘・腹部膨 ・食欲不振・腹水・黄疸・意識障害			講義	
	2	消化器疾患の検査① ・身体診察・糞便検査・肝機能検査・栄養状態のアセスメント ・膵外分泌機能検査・超音波検査・内視鏡検査・肝生検他			講義	
	3	消化器疾患の検査②/消化器疾患の治療 ・放射線検査・X線CT・MRI・肝シンチ・PET ・薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法			講義	
	4	疾患の理解① 食道疾患、胃・十二指腸疾患 ・食道がん・食道アカラシア・胃食道逆流症・機能性胃腸症・ ・胃十二指腸潰瘍・胃がん			講義	
	5	疾患の理解② 腸および腹膜疾患 ・過敏性腸症候群・腸炎・腹膜炎・虫垂炎・ヘルニア・イレウス ・寄生虫・消化管憩室・腸管ポリープ・大腸癌・肛門疾患			講義	
	6	疾患の理解③ 肝胆膵の疾患・急性腹症・腹部外傷 ・肝炎・肝硬変・門脈圧亢進症・肝不全・肝がん・肝外傷・胆 ・急性胆嚢炎・胆管炎・胆管がん・胆嚢がん・胆嚢ポリープ ・肝寄生虫疾患 ・膵炎・膵がん・急性腹症・腹部外傷			講義	
	7	まとめ 消化器疾患の総まとめ			講義	
		単元:腎・泌尿器系 担当:泌尿器科医師				
	8	腎・泌尿器系 症状とその病態生理 尿の異常・排尿症状・水/電解質異常・循環器系の異常など			講義	
	9	検査と治療・処置 診断法、主な検査・レントゲン検査・内視鏡など			講義	
	10	疾患の理解 腎不全、慢性腎臓病など			講義	
	11	感染症、尿路通過障害、尿路機能障害、尿失禁			講義	
	12	腎尿路外傷・異物、尿路結石症			講義	
	13	尿路性器の腫瘍、先天異常など			講義	
	単元:歯・口腔外科系 担当:歯科・口腔外科医師					
14	1. 歯科の一般知識 ①歯の構造 ②歯式 ③う蝕と歯周疾患 ④口腔ケア 2. 口腔外科疾患 ①炎症 ②嚢胞 ③外傷 ④顎変性症 ⑤腫瘍			講義		
	15	試験				
使用教材		単元:消化器系 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑮ 歯・口腔 医学書院 単元:腎・泌尿器系 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院				
参考文献		病気がみえる vol. 1 消化器 第4版 メディックメディア 適宜資料配布				
成績評価の方法		筆記試験				

科目名		疾病と治療Ⅲ(運動器、脳・神経)				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	9月～1月
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		医師3名	実務経験	医師実務経験あり		
科目目的		運動器・脳神経系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
学習目標		1. 運動器系疾患について、検査・診断・治療を理解する。 2. 脳神経系疾患について、検査・診断・治療を理解する。				
授業計画	回	授業内容				授業方法
		単元:運動器系 担当:整形外科医師				
	1	上肢の疾病と治療①				講義
	2	上肢の疾病と治療②				講義
	3	脊柱の疾病と治療①				講義
	4	脊柱の疾病と治療②				講義
	5	下肢の疾病と治療①				講義
	6	下肢の疾病と治療②				講義
	7	単元:脳神経系① 担当:脳神経外科医師 1. 主な症状とその病態生理 ・脳死 ・反射性運動の障害(瞳孔異常、嚥下障害、排泄障害、呼吸障害) ・頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 ・頭痛 2. 検査 ・CT ・MRI ・脳血管撮影 ・SPECT/PET ・脳脊髄液検査 3. 治療・処置 ・治療・処置の詳細は疾患の各論で				講義
	8	4. 脳脊髄性疾患(疾患各論) ・脳血管障害2(脳梗塞など)				講義
9	・脳血管障害1(くも膜下出血・脳内出血)				講義	
10	・脳腫瘍 ・脳感染症 ・てんかん ・顔面痙攣・三叉神経痛 ・頭部外傷 ・水頭症 ・脊髄疾患				講義	
	11	単元:脳神経系② 担当:神経内科医師 神経疾患の症状 ・大脳高次機能障害 ・運動機能の障害 ・言語障害				講義
	12	パーキンソン病の検査・診断・治療				講義
	13	多発性硬化症の検査・診断・治療				講義
	14	運動ニューロンに関する疾患 筋委縮性側索硬化症(ALS)、 ギランバレー症候群など				講義
	15	試験				
使用教材		単元:運動器系 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩運動器 医学書院 単元:脳神経系 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経 医学書院				
参考文献		脳神経外科学 金芳堂 クリッピング・バイパス・CEAの論理と技術 メディカ出版				
成績評価の方法		筆記試験				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		疾病と治療Ⅳ(血液、免疫、内分泌・代謝)				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期	11月～3月
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		医師2名	実務経験	医師実務経験あり		
科目目的		血液・免疫・内分泌疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
学習目標		1. 血液造血器の基礎知識をもとに、血液疾患を理解する。 2. 免疫機能の低下からくる膠原病の病態を理解する。 3. 免疫・内分泌疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法	
		単元:血液・造血器、免疫・アレルギー系 担当:内科医師				
	1	各血液細胞の働き			講義	
	3	血液細胞の分化からみた白血病の分類と治療				
	4	骨髄移植			講義	
		その他の血液悪性腫瘍の理解 (悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など)			講義	
		出血性疾患、凝固異常症の理解			講義	
	5	自己免疫とは何か			講義	
	6	自己免疫疾患の発生機序				
	8	自己免疫と膠原病			講義	
		膠原病の症状				
		膠原病の検査			講義	
		膠原病の治療				
		膠原病各論 (関節リウマチ、SLE、SSC、PM・DM、MCTD、シェーングレーン症候群 血管炎症症候群、抗リン脂質抗体症候群)			講義	
			単元:内分泌・代謝系 担当:内科医師			
10	甲状腺、副甲状腺疾患			講義		
11	副腎疾患			講義		
12	糖尿病			講義		
13	その他の疾患			講義		
14	総括			講義		
15	試験					
使用教材		単元:血液・造血器系 系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学④血液・造血器 医学書院 単元:免疫・アレルギー系 系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学⑪アレルギー・膠原病・ 感染症 医学書院 単元:内分泌・代謝系 系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学⑥内分泌・代謝 医学書院				
参考文献		適宜紹介する。				
成績評価の方法		筆記試験				

科目名		疾病と治療Ⅴ(感覚器、女性生殖器)			
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	1年次	履修時期 10月～3月
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間 2時間
担当教員		医師 認定看護師	実務経験	臨床実務経験あり	
科目目的		感覚器・女性生殖器の構造と機能、それらの病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。			
学習目標		1. 感覚器系(耳・鼻・咽頭・眼)、女性生殖器系、触覚器系の構造と機能を理解する。 2. 感覚器系(耳・鼻・咽頭・眼)、女性生殖器系、触覚器系に関して、主な症状や病態、診察・治療、疾患について理解する。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元:女性生殖器系 担当:婦人科医師 成人看護学⑨ 女性生殖器 第3章 症状とその病態生理			講義
	2	第4章			講義
	3	A. 診察・検査			講義
	4	B. 治療・処置			講義
	5	第5章 疾患の理解 A. 性分化疾患 B. 臓器別疾患 外陰、膣、子宮、卵管、卵巣、骨盤炎症性疾患 C. 機能的疾患 月経異常、更年期障害、不妊症、不育症、感染症			講義
	6	単元:女性生殖器系(乳腺) 担当:乳がん認定看護師 1. 乳がんの疫学・特徴・発生機序 2. 乳がんの種類・診断 3. 乳がん検診・自己検診			講義
	7	乳腺疾患 乳がんの治療・手術・薬物療法・放射線療法 事例紹介			講義
	8	単元:平衡感覚器系 担当:耳鼻咽喉科医師 耳の疾患			講義
	9	鼻・咽喉頭疾患			講義
	10	単元:視覚器系 担当:眼科医師 Ⅰ. 視覚器の解剖・生理 Ⅱ. 眼科の特徴(検査、治療)			講義
	11	Ⅲ. 視覚器の疾患 緑内障、白内障、網膜剥離、糖尿病性網膜症			講義
	12	単元:触覚器系 担当:皮膚科医師 触覚器系の検査・治療			講義
	13	皮膚の疾患 熱傷、凍傷、母斑、腫瘍など			講義
	14	皮膚の疾患 感染症など			講義
	15	試験			
使用教材		単元:女性生殖器系 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨女性生殖器 医学書院 単元:感覚器系 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫皮膚 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬眼 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭耳鼻咽喉 医学書院			
参考文献		適宜紹介する。			
成績評価の方法		筆記試験			

科目名		臨床判断の基礎				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	2年次	履修時期	前期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	15時間		
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的		疾病や関連する症候について臨床判断できる基礎的能力を養う。				
学習目標		起きている事象を把握し、推論・分析する過程を学ぶ。				
授業計画	回	授業内容			授業方法	
	1 (1時間)	1. 講義のガイダンス ①臨床判断とは ②臨床判断のプロセスと方法 ③病態関連図の作成 *2・3回目の事例を提示し、事前学習を必須とする。			講義	
	2	2. 症候のアセスメント 事例の症候から患者に何が起きているのかを考える。 ①腹痛 ②呼吸困難			グループワーク ジグソー学習	
	3	③意識障害、倦怠感 ④発熱 ⑤局所の浮腫・疼痛・熱感・発赤 * SCENARIOの事例に関する事前情報を提示し事前学習を必須とする。			グループワーク ジグソー学習	
	4	3. 疾病のアセスメント ①シミュレータの事例に関する事前情報を基に患者の病態の理解や起こりうることを共有する。			グループワーク	
	5・6	②シミュレータを用いたアセスメントの実際 ③事例に対して多角的な視点でアセスメントを行い、何か起きているのか、今後起こりうることは何か、ディスカッションの実施 ④病態関連図の作成			グループワーク シミュレータでのシミュレーション	
	7・8	⑤グループワーク発表 各グループ30分程度の講義をおこなう。 学生は、講義の実施や聴衆として聞き、気づいたことわかったことをレポートにまとめ提出する。			グループワーク	
使用教材		看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版(学研) 疾患別看護過程+病態関連図 第4版(医学書院) 多職種連携ハイブリッドシミュレータSCENARIO				
成績評価の方法		2・3回グループワーク参加状況10点 発表内容10点 5～8回グループワーク参加状況10点 発表内容10点 レポート内容60点				

イメージ:

事例には症状があり、疾患は不明。腹痛の場合は、例えばイレウスによる腹痛を想定して事例を設ける。

腹部膨満感、排ガスなし、腸蠕動音「金属音」微弱にあり。関係ない情報も含む。

何が起きているのか:麻痺性イレウスの特徴的な症状 何故腹痛があるのか 金属音、排ガスがない理由

今後起こりうること:嘔吐 腸管壊死、ショック

必要な情報:X=Pによる二ボーの確認 定期的なVS 医師への報告 採血データの確認

科目名		臨床栄養				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	2年次	履修時期	前期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員		管理栄養士	実務経験	管理栄養士実務経験あり		
科目目的		人間にとって必要な栄養素や栄養摂取の意義を理解し、健康の保持、疾病の回復のための栄養食事療法とチームの連携について理解する。				
学習目標		人間にとって必要な栄養素や栄養摂取の意義を理解し、健康の保持、疾病の回復のための基礎的な原理、栄養食事療法及びチームの連携について理解する。				
授業計画	回	授業内容				授業方法
	1	第1章:栄養食事療法とは A 栄養食事療法の概要 B 医療・福祉の場における栄養食事療法 第2章:栄養食事療法の実際 A 病院食の分類と特徴 B 栄養補給法 C 栄養アセスメントの基本 第3章:症状を持つ患者の栄養食事療法 Aショック B 発熱 C 脱水 D 摂食・嚥下障害				講義
	2	第4章:呼吸器疾患患者の栄養食事療法 A 肺炎 B 急性呼吸不全 C 慢性閉塞性肺疾患 第5章:循環器疾患患者の栄養食事療法 A 高血圧症 B 動脈硬化症 その他 第8章:代謝性疾患患者の栄養食事療法(脂質異常症のみ)				講義
	3	第6章:消化器疾患患者の栄養食事療法(胃炎～下痢) A 上部消化管 B 下部消化' その他 ・消化器疾患患者の栄養食事療法(慢性肝炎～胃食道逆流症)				講義
	4	第7章:腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法 ・腎疾患の治療と概要 ・栄養食事療法の原則・実際				講義
	5	第8章:代謝性疾患患者の栄養食事療法(肥満～ビタミン・ミネラル欠乏) ・代謝性疾患患者の栄養食事療法(糖尿病・痛風など 脂質異常症を除く) 第9章:血液疾患患者の栄養食事療法(貧血・白血病) 第12章:熱傷・褥瘡の栄養食事療法(熱傷・褥瘡)				講義
	6	第11章:精神・神経疾患患者の栄養食事療法(摂食障害・アルコール依存症) 第13章:術前・術後の栄養管理				講義
	7	第14章:がん患者の栄養管理 第10章:アレルギー その他:骨粗鬆症、医療保険制度と食事 ・医療保健と食事、栄養管理(栄養サポートチーム)、介護保険と食事 試験				講義
使用教材		1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院				
成績評価の方法		筆記試験				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		リハビリテーション				
教育内容		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	履修年次	2年次	履修時期	前期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員		理学・作業療法士・言語聴覚士	実務経験	理学・作業療法士・言語聴覚士実務経験あり		
科目目的		リハビリテーションの基礎を学び、障害をもつ人々の生活支援を理解する。				
学習目標		1.リハビリテーションの概念を理解し、障害のある人の身体機能に対するリハビリテーションについて理解する 2.障害を持つ人の生活を理解し、その人らしい暮らしの再構築に向けた支援について理解する 3.リハビリテーションに関わる職種間の連携と、看護の役割について理解する				
授業計画	回数	授業内容				授業方法
	1・2	1 リハビリテーションの概念 定義、歴史 目的 2 機能障害とリハビリテーション リハビリテーションを必要とする人 障害を負うということ 障害のある人とその家族の暮らし 障害のある人にとってのリハビリテーションの意味				講義
	3・4 5・6	3 生活行動の再獲得に向けた支援 ・呼吸 話す ・飲食 排泄 ・休息 動く ・見る 聞く ・記憶する ・整容				講義
	7	4 リハビリテーション医療とチームアプローチ 職種間の連携の在り方 QOL向上に向けた生活行動の再獲得のための訓練 ・廃用症候群に予防 ・生活自立度を高める訓練 ・生活の質を高める訓練 ・チーム医療の中での看護師の独自性と連携 試験				講義
使用教材		ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版				
参考文献		講義中に適宜提示する				
成績評価の方法		筆記試験				